

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

旧制鳳中学校時代からの綱領「誠実・剛健・進取」のもと、普通科単位制高校ならではの恵まれた学習環境を活かし、生徒が広い視野を持ち、他者と協働しながら、「自分ごと」として様々な課題に取り組めるよう支援することで、将来の地域社会の中核を担う者として、その発展に貢献できる人材を育成します。 (めざす生徒像) 1 将来に向かって高い志を抱き、信念を持って果敢に挑戦する生徒 2 自らの夢や目標に向けて、本校入学後も向学心を持って勉学に取り組む生徒 3 本校の普通科単位制のシステムを活用し、進路実現に向けた幅広い知識と情報の吸収を意欲的に行う生徒 4 学業のみならず、部活動や学校行事等を通して、自己の成長のために努力を惜しまない生徒
--

2 中期的目標

1 夢や目標に向けて、進路実現に取り組む生徒の育成 「自分ごと」として物事を捉え、様々な課題に向き合い、将来の自分を見据えて粘り強く取り組んでいく姿勢を育成する。 (1) 生徒が主体的に取り組む進路学習・キャリア教育を充実させる。 (2) 新学習指導要領・大学入試改革に対応した校内体制・教育活動を充実させる。 (3) 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図り、年間を通じた指導を行う。 (4) R6に支援を受けた学校経営推進費を活用し「鳳で校内留学」を実践するために英語エキスパートクラスの設置とLL 教室の整備を行う。
2 確かな学力の育成 視野を大きく持って、様々な課題に取り組むために知識・技能とともに常に改善する意識を育成する。 (1) 学びの質の向上を行い、知識・技能の確実な定着を行う。 (2) 外部との連携を含めたカリキュラム・マネジメントを行い、教育活動全般で生徒の自主性・創造性を引き出す取組みを進める。 (3) 知識・技能に偏らず、課題解決に向けて創意工夫する意識を持続する心を育てる。
3 安全安心な学校づくり 個性を活かしつつ、他者を思いやることにより好ましい人間関係を構築できる力の育成。 (1) 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。 (2) 地域や外部機関等を活用して、安全安心な学校づくりを行う。 (3) 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立をめざす。
4 教員の資質向上と学校運営の改善 教員個々の資質を向上させるとともに学校運営を考えた業務を行うことにより組織力の向上を行う。 (1) 教職員間の情報共有を進め、教職員の学校運営への参加を促進する。 (2) 他校視察、教員研修、授業見学などの機会を設け、教育に関する情報収集を積極的に行う。 (3) ノークラブデーや学校休業日を確実に実施するとともに、時間外労働が月 80 時間以上の教員を減少させていく。
※ R8までに海外オンライン交流2回/年以上。英検2級受験者2年生 55%以上、1 年生 30%以上にする。 ※ R8までに国公立大学進学者 70 名以上(R3 54 名、R4 65 名、R5 54 名)にする。また、難関私立大学合格者 200 名以上(R3 211 名、R4 230 名、R5 178 名)を維持する。 ※ R8までガイダンスに係る生徒の満足度 90%以上を維持する。(ガイダンス R3 94%、R4 94%、R5 95%) ※ R8まで進路指導に係る生徒の満足度 90%以上を維持する。(進路指導 R3 86%、R4 85%、R5 90%) ※ R8まで授業理解の肯定的評価 80%以上を維持する。(R3 81%、R4 81%、R5 83%) ※ R8は生徒の自己管理能力の肯定的評価 80%(R3 78%、R4 78%、R5 79%)をめざし、生徒・教職員とのギャップを 20 ポイント未満(R3 23p、R4 6p、R5 9p)を維持する。 ※ R8まで生徒・保護者の学校満足度「入学して満足」85%以上を維持する。(生徒：R3 88%、R4 85%、R5 90% 保護者：R3 89%、R4 91%、R5 92%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 6 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
・生徒の回答数が昨年度と比較して大きく減少している（今年度 63%、昨年度 80%）。昨年度と同様にフォーム作成ツールでの実施であるが、年々減少傾向にあるため、実施方法や周知方法を検討する必要がある。 ・『第 2 次大阪府教育振興基本計画 前期事業計画に基づく意識調査』と合わせて実施するために、類似の質問事項の文言を変更した。 【生徒】 ・「授業理解」「主体的取り組み」の肯定的回答はともに 87%であった。一方で、授業以外での学習時間 2 時間以上の回答は 41%であった。1、2 年次の自学自習時間の確保が課題であるが、例年と変化がなかった。 ・「進路指導」「科目選択等のガイダンス」の肯定的回答は 90%以上で、評価指標を上回った。 ・「教育相談体制」の肯定的評価は 80%以上で、評価指標を上回った。 ・「自己管理能力」の肯定的回答は例年並みの 81%、「部活動との両立」の肯定的回答も例年並みの 73%であった。 ・「学校が楽しい」の肯定的回答は例年並みの 87%、「入学して満足」の肯定的回答も例年並みの 90%であった。 ・「デジタル機器を活用した授業への興味関心」の肯定的回答は 74%、「海外の高校や大学との連携」の肯定的回答は 54%であった。 【教職員・保護者】 ・教職員間の「組織的連携」「相談しやすい環境」の肯定的評価が、昨年度より 8 ～10%減少した。 ・「ホームページや公式 SNS の活用」について、教職員は 90%が肯定的評価であったが、保護者は 55%であった。 ・「保護者の行事参加」は 76%で、8 ポイント増加した。	【第 1 回】（7/26） ・新制服について インパクトが大きい。落ち着いた鳳高校らしさがある。 ・DXハイスクール、グローバル人材の育成について 多様な思考のもとで学べる環境、単位制に見合う器になりつつあるが、中身がどうなるかが重要である。 ・グローバル人材の育成について 【第 2 回】（12/20） ・探究的な授業の取り組みを進める ・プロジェクター等を用いた授業の効果 ・DXハイスクールやグローバル人材育成を含め、学校の特色をどうアピールするかが重要である。 【第 3 回】 ・令和 6 年度学校教育自己診断結果を受けて 「探究」に関する教員の肯定的意見が増加。 探究活動について本格的にはじめたことによる。 生徒のアンケート回答率の低下。完全オンライン化の影響ではないか。ホームルームなどで時間を取って回答させることを提案。 ・令和 7 年度学校経営計画（案）について めざす学校像については、変更なし。 分掌委員会の再編を行い、総務部を解体して業務を整理し各分掌、委員会、首席に分担する。カリキュラム・マネジメント委員会をカリキュラム委員会と探究委員会に分割して再編する。教育相談委員会を教育相談委員会、支援教育委員会に分割して再編する。国際交流委員会の構成員を見直す。 学力向上、探究心の育成、広報活動、DX ハイスクール、グローバル人材の育成を重点項目として記載した。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（R5年度値）	自己評価
1 夢や希望に向けて、進路指導に取り組む生徒の育成	(1) 主体性 生徒が主体的に取り組む進路学習・キャリア教育を充実させる。 (2) 新学習指導要領・大学入試改革に対応した校内体制・教育活動を充実させる。 (3) 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図り、年間を通じた指導を行う。	ア 総合的な探究の時間、LHR 等を改善充実させ、計画的に実施する。 (ア)進路学習・キャリア教育の内容、実施時期・提供方法の工夫及び大学、教育産業等の活用 (イ)長期休暇中等の講習を継続・充実 (ウ)家庭学習・自主的な学習の充実 ア 全学年が、新学習指導要領に移行する年度となるので、観点別学習状況評価に関する課題とその対策を共有し、主体性を適切に評価することで生徒の学びに向かう力を伸ばす。 イ 生徒の学習状況、進路等のデータ分析や情報を学校全体で共有し、蓄積することで3年間を見通した継続的な進路指導ができるようにする。そのため、外部テストや学習支援ツール等を学校全体で共通とし効率・効果を高める。 ア 生徒の進路意識を高め、最適な科目選択を行えるよう、生徒自ら進路の資料・情報を収集し咀嚼する機会を計画的に提供する。 (ア)ガイダンスを年間を通じて実施し、生徒の進路選択を支援する。 (イ)学習や進路意識の診断結果等を活用した懇談・ガイダンスを充実させる。 (ウ)専門家による説明会、講演会等を活用して将来のイメージを具体化させる。 (エ)科目選択モデル案の改善	(ア)「生徒が進路資料・情報を自分で集める努力をしている」を70%以上（79%）で維持する。 (イ)「生徒の講習への参加状況」を3年40%以上（57%）、全学年35%以上（35%）を維持する。 (ウ) 家庭学習・自主的な学習への取り組みを促す仕組みを考え実施する。 ア「生徒の授業理解」を80%以上（83%）で維持する。（新規） イ・大学入学共通テスト受験者の国語、数学、英語の平均点が全国平均を上回る。（国語+7.2：数学+5.6：英語+2.5） ・平日の「自学自習時間」2時間以上の生徒について、1、2年生は20%（16%）、3年生は80%（89%）にする。 (ア)「生徒が進路資料・情報を自分で集める努力をしている」を70%以上（79%）で維持する。 (イ)「ガイダンスへの肯定的評価」を90%以上（95%）で維持する。 (ウ)「将来の生き方や進路について考える機会の提供」を80%以上（90%）で維持する。 (エ)「コース選択や進路情報の提供」を80%以上（88%）で維持する。	(1) 主体性 ア (ア)79%【○】 (イ)3年57%、全学年35%【○】 (ウ)学力向上委員会を中心として家庭学習時間等を調査し、より効果的な家庭学習となるための方策について検討した。 (2) ア 87%【◎】 イ 大学入学共通テストは、国語は7.2点、数学は5.6点、英語は2.5点全国平均を上回った。【◎】 生徒の平日の自学自習時間1、2年12%、3年85%【△】 (3) ア (ア) 79%【○】 (イ) 94%【◎】 (ウ) 94%【◎】 (エ) 89%【◎】
2 確かな学力の育成	(1) 学びの質の向上を行い、知識・技能の確実な定着を行う。 (2) 外部との連携を含めたカリキュラム・マネジメントを行い、教育活動全般で生徒の自主性・創造性を引き出す取組みを進める。 (3) 知識・技能に偏らず、課題解決に向けて創意工夫する意識を持続する心を育てる。	(1) 学力向上委員会中心に先進校視察、教員相互の授業見学、先進事例の紹介などを行い授業力の向上とともに生徒の学力の向上を行う。 ア 生徒自治会・委員会の活動を活性化して生徒の自主性を高める。 イ 地域や他校種との連携を行い生徒の創造性を養う ア カリキュラム委員会を中心にカリキュラムマネジメントを担う委員会を設立し、教育活動全般について総合的に計画する。 イ 授業を大切にし、自らの弱点を克服し力を伸ばす工夫をする力を育む。	(ア)教員相互の校内授業見学の仕組みの確立 校内研修・情報交換会を年3回以上（3回）実施する。 (イ)校内研修は1回以上（3回）、好事例の共有は3回以上（3回）実施する。 ア (ア)「自治会活動の有用感」を80%以上（87%）で維持する。 (イ)「自分は積極的に学校行事に参加した」を90%以上（93%）で維持する。 イ 他校種との連携授業5回以上。クラブ等での連携5回以上。（新規） ア (ア)「生徒が自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会がある」を教員80%以上（83%）、生徒90%以上（96%）で維持する。 (イ)「教員のICT機器の活用」について、教材研究（89%）・授業での活用（84%）ともに85%以上とする。 イ 外部テストの結果分析会を実施 「授業が分からない場合は先生に聞く」を60%以上（55%）にする。	(1) (ア) 教員相互の校内授業見学を前・後期1回ずつ実施。研究授業や研究協議は初任者及び10年経験者によるものを含め、年間5回実施した。【○】 (イ) 職員会議等で学力向上委員会議事録を共有(月1回程度)【○】 (2) ア (ア) 88%【◎】 (イ) 91%【○】 イ 他校種との連携授業2回。クラブ等での連携5回以上【△】 (3) ア (ア)教員100%、生徒87%【○】※生徒用の質問は「機会がある」から「取り組んでいる」に変更 (イ)100%【◎】 イ 分析会を実施した。 「先生に聞く」56%【△】

府立鳳高等学校

3 安心安全な学校づくり	(1) 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。 (2) 地域や外部機関等と連携する。 (3) 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立、ストレスコントロール力、安心安全な学校づくりを推進する。	ア 人権 HR、人権映画鑑賞や教職員人権研修を柱に据えて取り組む。 (ア) 他人を思いやり、自己を大切にできる人間性を育む。 (イ) 教育相談体制を充実し、SC・SSW との連携を密にする。 (ウ) 各種学校行事、史跡探訪、国際交流研修、スピーチコンテスト等を活用して、自分の意見をわかりやすく伝えるときともに、多様な価値観に触れたり、協働したりする活動を設定し、コミュニケーション力を高める。 ア 開かれた学校づくりを実践し地域や中学生への理解を深める。保護者に対しては、Google クラスルーム等を通じて情報提供を密にし、SNS の活用を含めて学校への関心を高める。 ア 日常の生活指導と強化週間とを効果的に連動させる。 (ア) 登下校時の安全指導(特に自転車指導)の継続 (イ) 「朝の読書」の時間や SHR の活用 (ウ) 「集中と切り替え」を指導し、学習活動と部活動・学校行事の両立を図るとともに、外部テスト等も積極的に活用して家庭学習の定着を図る。	(ア) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を 80%以上（84%）で維持する。 (イ) 「教育相談体制が整備されており、生徒は担任以外の教職員とも相談することができる」を 70%以上（81%）で維持する。「悩みが相談しやすい」を 50%以上（50%）で維持する。 (ウ) 「授業などで自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会がある」を 90%以上（96%）で維持する。 ア 学校 HP の利用状況の向上 ・保護者「学校のホームページ・SNS をよく見る」60%以上（49%）にする。 ・教員「情報提供の手段として、学校のホームページ・SNS が活用されている」を 90%以上（96%）で維持する。 (ア) 「学校は基本的な生活習慣の確立に力を入れている」を 85%以上（88%）で維持する。 (イ) 遅刻登校者数 3,000 件未満（3,750 件）を維持する。 (ウ) ・平日の「自学自習時間」2 時間以上の生徒について、1、2 年生は 20%（16%）、3 年生は 80%（89%）にする。※再掲 ・部活動加入率を 85%以上（86%）で維持する。 ・「学習と部活動の両立ができている」を 70%以上（70%）で維持する。 ・生徒の「自己管理能力は十分にある」を 75%以上（79%）で維持し、教職員（71%）とのギャップを 20 ポイント未満（6 ポイント）とする。	(1) ア (ア) 89%【◎】 (イ) 「教育相談体制」84%「相談しやすい」63%【◎】 (ウ) 87%【△】※生徒用の質問は「機会がある」から「取り組んでいる」に変更 (2) ア 保護者「よく見る」55% 教員「活用されている」89%【△】 (3) ア (ア) 88%【○】 (イ) 5054 件【△】 (ウ) ・平日の自学自習時間 1、2 年 12%、3 年 85%【△】 ・部活動加入率 89%【○】 ・学習と部活動の両立ができている 73%【○】 ・自己管理能力は十分にある 生徒 81%、教員 61% ギャップは 20 ポイント【△】
4 教員の資質向上と学校運営の改善	(1) 教職員間の情報共有を進め、教職員の学校運営への参加を促進する。 (2) 他校視察、教員研修、授業見学などの機会を設け、教育に関する情報収集を積極的に行う。 (3) ノークラブデーや学校休業日を確実に実施するとともに、時間外労働が月 80 時間以上の教員を減少させていく。	(1) 情報を適切に管理するとともに必要な情報を共有し、学校運営に役立つ仕組みを作る。 (2) 教員相互および他校の状況を適切に把握することにより、教員個々の業務の改善、学校の課題の解決に寄与する。 (3) 部活動方針を遵守し、月毎の時間外労働の把握と必要に応じて縮減に向けた指導を継続して行う。	(1) 職員室の配置や ICT の活用など、教員間での情報共有ができるように組織運営を行う。「教員間で適切に情報共有が行われている」80%以上（新規） (2) 管外への学校視察 1 回以上。近隣の先進校視察を 2 回実施する。得られた情報を還元し本校の教育活動の改善に寄与する。（新規） (3) ノークラブデー等の完全実施。月 80 時間以上の時間外労働教職員数を 17 名未満（18 名）とする。	(1) 79%【△】 (2) 管外 1 回【△】 (3) 16 名【○】